

農業体験 百笑村 (ひゃくしょうむら)

農業を一から教えます 体験を通して 農山村と都会の交流を

訪れる人から「父さん」と、親しみをこめて呼ばれる百笑村の村長、佐々木義実さんは20年も前から、都会の農業体験希望者を受け入れています。きっかけになったのは、お世話になった横浜の親子を招いて農作業を手伝ってもらったとき、子どもも大人も夢中になっている様子を見たこと。「農家がいつもしている農作業なのに、こんなことで喜んでもらえるんだ」と思ったそうです。そして、その親子を見た義実さん自身も嬉しくなったと言います。それが続いて20年。昨年は延べ150人ほどを受け入れました。繰り返し何回も来る人もいます。「農業に興味を持って、一緒に作業をすることで農業というものを少しでも理解してくれるかな」という気持ちもあるそうです。義実さんの今の生き方の原点は、若いころ出稼ぎで広い社会に飛び出したとき、いろいろな生き方があること知ったこと。農業だけやっていたでは知り合えない人と出会ったことです。人は出会いによって生き方まで変わることがある、と感じているそうです。都会から来る農業体験希望者と共に、義実さんもまた出会いを楽しんでいるようです。ぜひ楽しい農業体験にお越しください。



佐々木義実さん

「無農薬・無化学肥料・ハサガケ」の3つそろった究極の米作りをめざす「百笑村」代表、佐々木義実さん。先祖代々の土地を大切に守る16代目です。



ヤギのミミーとポニーのタロウ

手をかけて育てているから放し飼いにしても大丈夫。たくさんいる動物の中からヤギのミミーとポニーのタロウ。



ハサガケ作業

稲刈りのあとのハサガケ作業。充分に天日干しして、自然乾燥させます。懐かしい昔ながらのごはんの味がします。



土起こし

スコップを深く差しこみ、土を起こして裏返します。通気性がよく水はけの良いフカフカの土にして、おいしい作物を育てる準備をします。



米作り体験

土起こしから収穫まで、何度も足を運び米作りを体験をしたグループ。「田んぼがたくさんのことを教えてくれた。ありがとう！」



黒毛和牛

畜産農家で黒毛和牛も育てています。



運転にもチャレンジ

普段は出来ないことにも挑戦します。はじめは出来ないと思っていたことも、だんだん出来るようになります。



作業後の食卓

作業の後、みんなで食べるご飯はおいしい。家族と食べているようで、秋田が第2のふるさとになった体験者も大勢います。



百笑村通信

手書きの「百笑村通信」。天候のこと、農業のこと、地域のこと、かわいい動物たちのことなど、義実さんの関心の赴くまま書き連ねてあります。

農業体験 百笑村 (ひゃくしょうむら)

体験料などはお問合せください。

■住所 / 大仙市大沢郷百笑村一番地 (大仙市大沢郷字椒沢130)
■TEL&FAX / 0187-78-1994

